

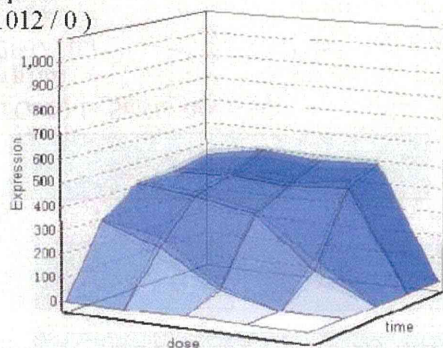
3.3.補正結果比較

TTG020-L(TCDD肝臓)

Cyp1a1 ダイオキシン類で誘導されることが知られている

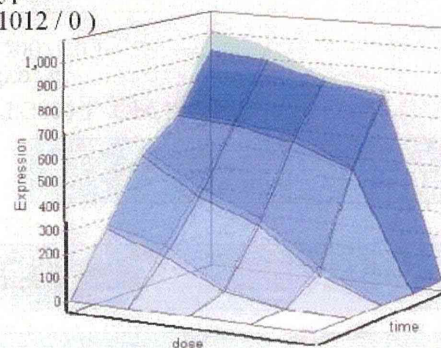
SpNC

TTG020-L_SpNC_1_02217_a.at
Cyp1a1
(1012 / 0)



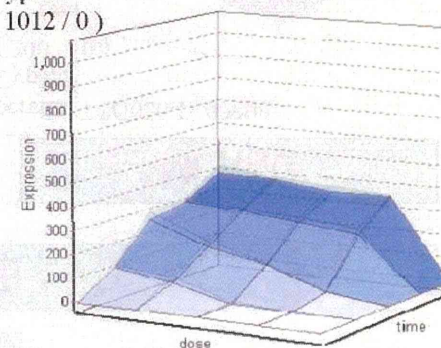
QPCR

TTG020-L_QPCR_1_SpNC_0
Cyp1a1
(1012 / 0)



MLANG

perclin_TTG020-L_07200_a.t
Cyp1a1
(1012 / 0)



飽和状況が改善されているが、MLANGは結果全体が低い

3.3.補正結果比較

TTG020-L(TCDD肝臓)

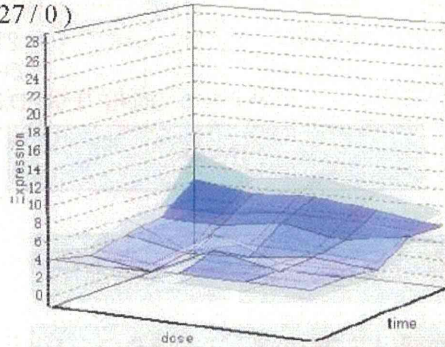
Ahr

ダイオキシン類のレセプターとして知られている

SpNC

TTG020-L_SpNC_050695 at

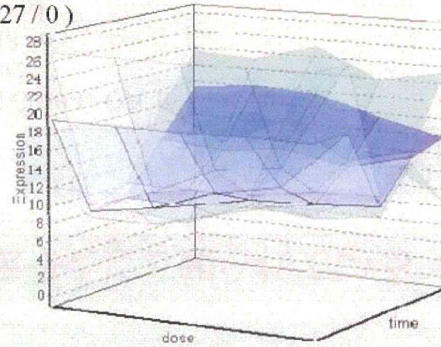
Ahr
(27/0)



QPCR

TTG020-L_QPCR_SpNC at 0

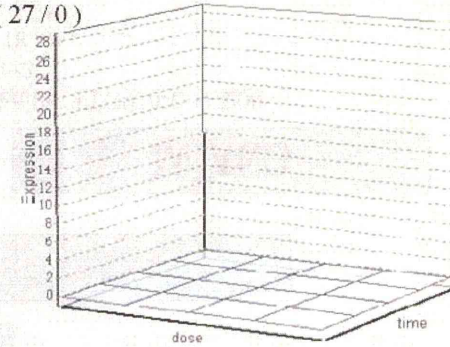
Ahr
(27/0)



MLANG

perclin_TTG020-L_07200 at

Ahr
(27/0)



MLANGは結果全体が低い(0となっている)

3.3.補正結果比較

TTG020-L(TCDD肝臓)

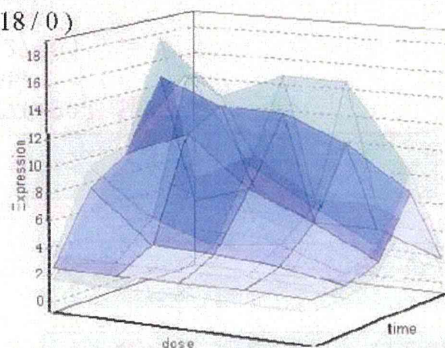
Per2

概日リズムの遺伝子として知られている

SpNC

TTG020-L_SpNC_017802 at

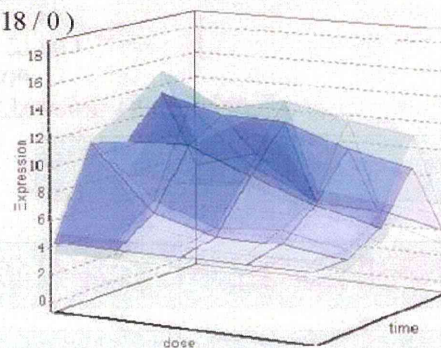
Per2
(18/0)



QPCR

TTG020-L_QPCR_SpNC_017802 at

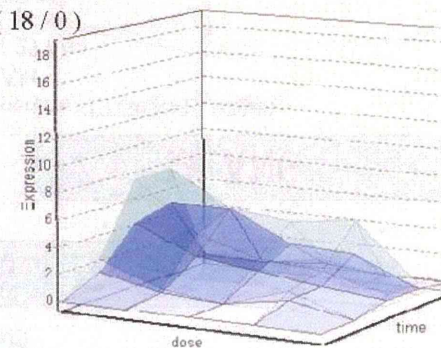
Per2
(18/0)



MLANG

perclin_TTG020-L_07200 at

Per2
(18/0)



MLANGは結果全体が低い

3.3.補正結果比較

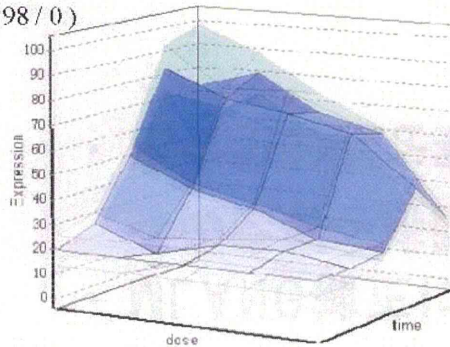
TTG020-L(TCDD肝臓)

Nr1i3

アンドロスタンレセプター

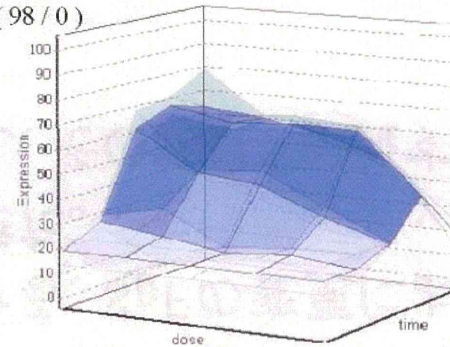
SpNC

TTG020-L_SpNC_0
Nr1i3
(98 / 0)



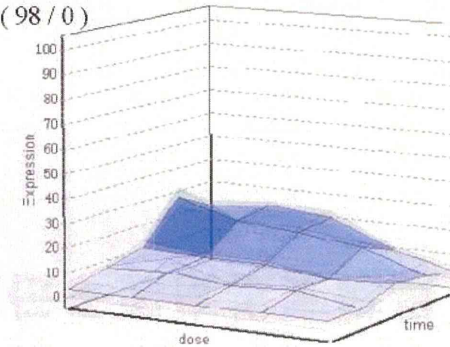
QPCR

TTG020-L_QPCR_SpNC_0
Nr1i3
(98 / 0)



MLANG

perclin_TTG020-L_07200
Nr1i3
(98 / 0)



MLANGは結果全体が低い

4.化合物分類

- MLANG補正における、SpFの変更による遺伝子濃度推定結果への影響を排除できた。
- 化合物分類を実施し、その結果を検証する。

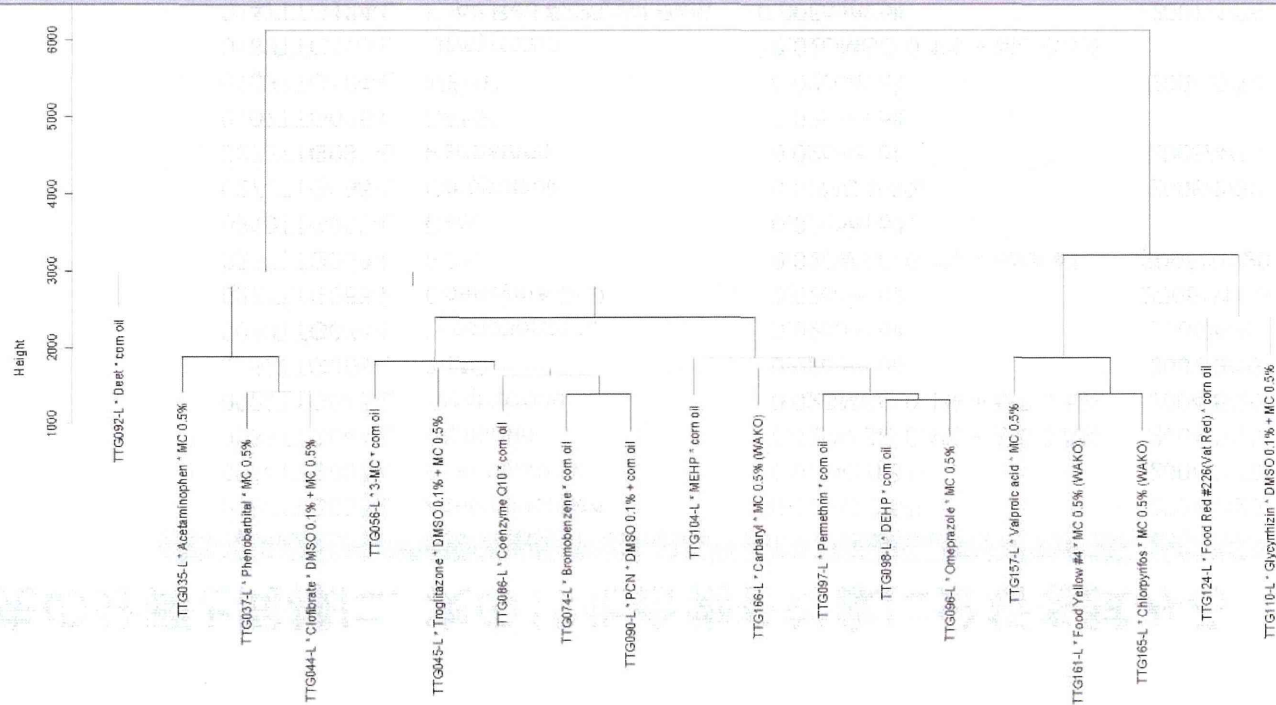
4.1.対象化合物

先の分類と同様に、次の19化合物を対象に分析を試みる

Project No.	Project Name	Chemical	SpF	Vehicle	date
0086TTG035-L		Acetaminophen	0.02	MC 0.5%	2004/2/26
0014TTG037-L		Phenobarbital	0.02	MC 0.5%	2004/2/19
0033TTG044-L		Clofibrate	0.02	DMSO 0.1% + MC 0.5%	2004/5/13
0029TTG045-L		Troglitazone	0.02	DMSO 0.1% + MC 0.5%	2004/5/20
0052TTG056-L		3-MC	0.02	corn oil	2004/9/16
0090TTG074-L		Bromobenzene	0.02	corn oil	2005/5/12
0271TTG086-L		Coenzyme Q10	0.02	corn oil	2005/11/15
0237TTG090-L		PCN	0.02	DMSO 0.1% + corn oil	2005/10/20
0219TTG092-L		Deet	0.02	corn oil	
0272TTG096-L		Omeprazole	0.02	MC 0.5%	2006/3/30
0273TTG097-L		Permethrin	0.02	corn oil	2006/4/13
0107TTG098-L		DEHP	0.02	corn oil	
0108TTG104-L		MEHP	0.02	corn oil	2006/5/16
0183TTG110-L		Glycyrrhizin	0.02	DMSO 0.1% + MC 0.5%	
0147TTG124-L		Food Red #226(Vat Red)	0.005	corn oil	2007/1/25
0245TTG157-L		Valproic acid	0.005	MC 0.5%	2008/12/18
0274TTG161-L		Food Yellow #4	0.005	MC 0.5% (WAKO)	2009/4/23
0275TTG165-L		Chlorpyrifos	0.005	MC 0.5% (WAKO)	2009/7/16
0276TTG166-L		Carbaryl	0.005	MC 0.5% (WAKO)	2009/12/17

4.2.階層クラスタリング結果（溶媒群）

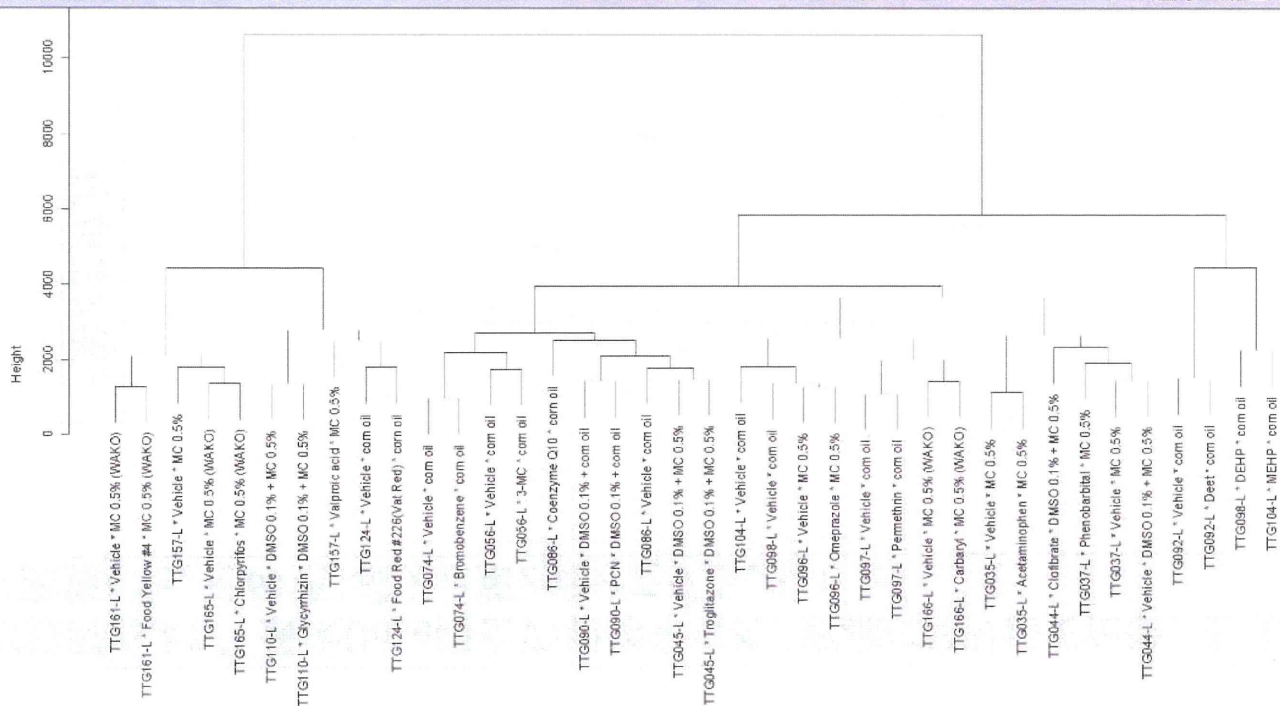
溶媒群同士の距離を求め、階層クラスタリングを実施した。



分岐に影響を与えている情報の判読は難しい

4.3. 溶媒群および最大Dose

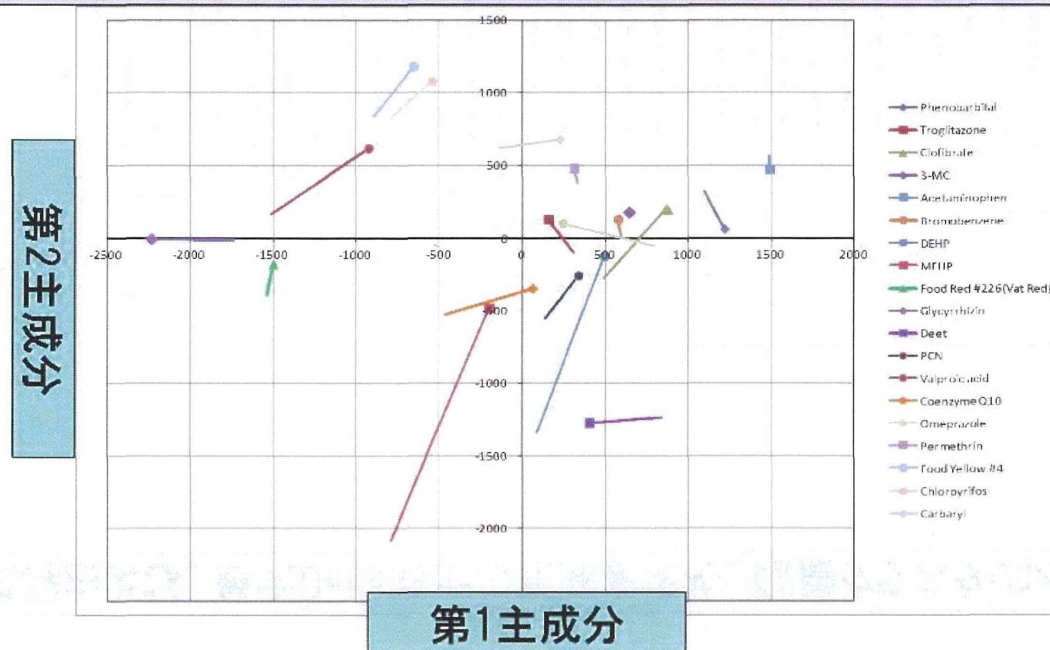
溶媒群および、最大Dose同士の距離を求め、階層クラスタリングを実施した。



分岐に影響を与えている情報の判読は難しい

4.4.1.主成分分析結果

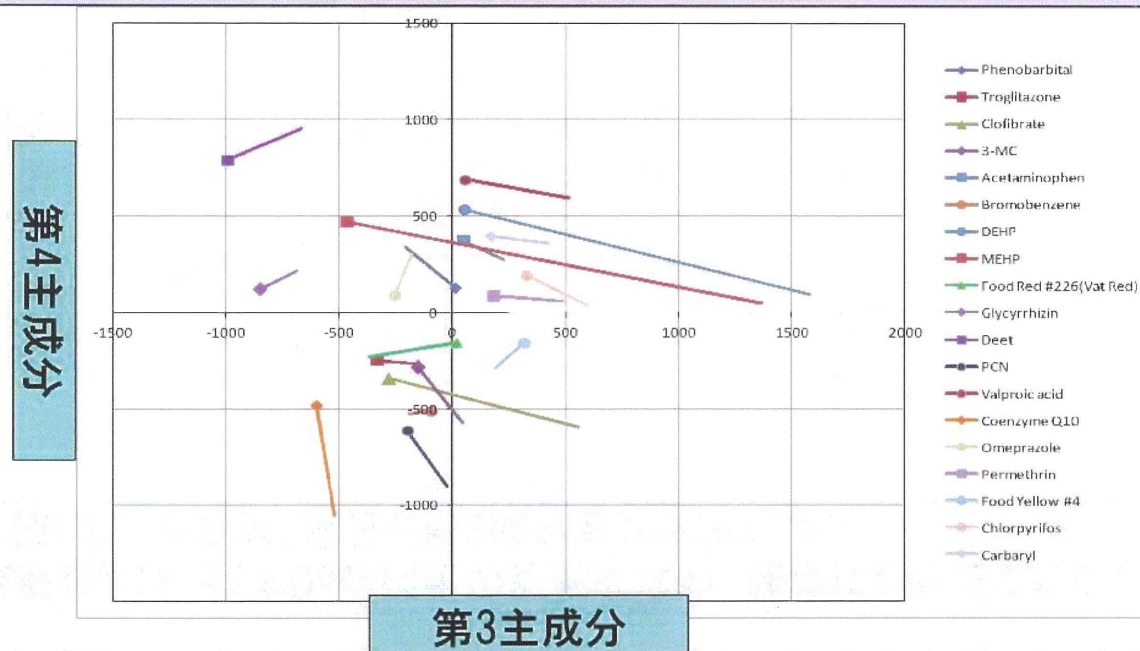
溶媒群および、最大Dose同士の距離を求め、座標に割り当てた後、主成分分析を実施した。その第1成分と第2成分をグラフにした。



第1主成分は、プロジェクト間の違いを表しているように思われる。第2主成分は、MEHP、DEHPの反応を表しているように思われる。

4.4.2.主成分分析結果

溶媒群および、最大Dose同士の距離を求め、座標に割り当てた後、主成分分析を実施した。その第3成分と第4成分をグラフにした。



第3主成分は、MEHP、DEHP、Clofibrate、Valproic Acidなどの反応を表しているように思われる。第4主成分は、プロジェクト間の違いを表しているように思われる。